

## 平成26年・平成27年（1期速報）伊勢市観光客実態調査の結果概要

### 3. 観光客実態調査

#### 〈目的〉

- ・伊勢市を訪れる観光客の旅行目的、来訪手段、滞在種別（日帰り・宿泊）、立寄り箇所数、消費額、満足度など行動実態に関する調査を実施し、その特性、傾向等进行分析することにより本市の観光の実態を明らかにし、本市の観光施策の効果的な推進を図る。

#### 〈調査日〉

- （平成26年）・1期：平成26年10月25日（土）
  - ・2期：平成26年12月13日（土）、（追加調査12月23日（祝））
- （平成27年）・1期：平成27年4月25日（土）

#### 〈調査方法〉

- ・本市内の調査地点を訪れた観光客を対象に、調査員による「対面聞き取り調査」を行いました。

#### 〈調査地点〉

- ・本市内の下記4地点を対象としました。  
外宮周辺（外宮前バス停横広場）、内宮周辺（おかげ横丁）、二見（二見浦公園駐車場）、河崎（河崎商人館周辺）

#### 〈調査対象〉

- ・調査地点を訪れた観光客を対象とします（市民を除外しません）。
- ・本調査では外国人観光客を対象としません。

#### 〈回収数〉

- （平成26年）1期：425サンプル、2期：417サンプル 合計：842サンプル（うち市民40サンプル）
- （平成27年）1期：351サンプル（うち市民30サンプル）

#### 〈今回公表する調査結果〉

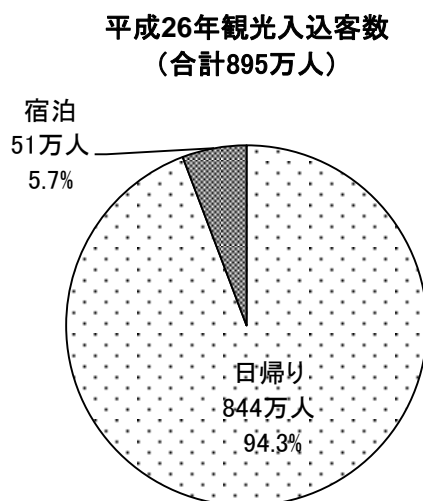
- ・平成26年観光入込客数の推計結果
- ・平成26年観光消費額の推計結果
- ・平成26年観光客満足度の集計結果
- ・平成26年・平成27年1期速報結果（抜粋）

## ●平成 26 年観光入込客数の推計結果

### 平成 26 年の観光入込客数は 895 万人

- ・観光入込客数（日帰り・市外宿泊）は 844 万人、観光入込客数（市内宿泊）は 51 万人

※調査自体は市民を含んで実施していますが、この推計では市民を除いています。

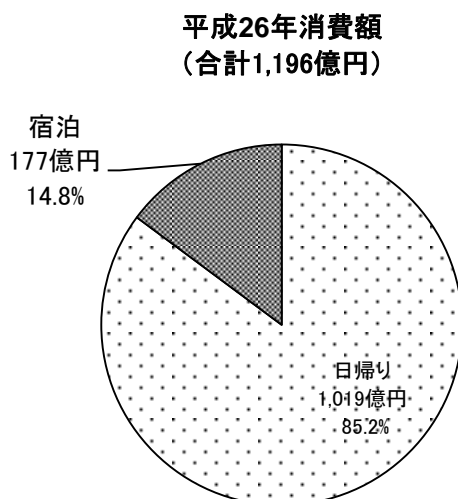


## ●平成 26 年観光消費額の推計結果

### 平成 26 年の観光消費額は 1,196 億円

- ・観光入込客数に平均消費額を乗じた観光消費額の総額は 1,196 億円

※調査自体は市民を含んで実施していますが、この推計では市民を除いています。



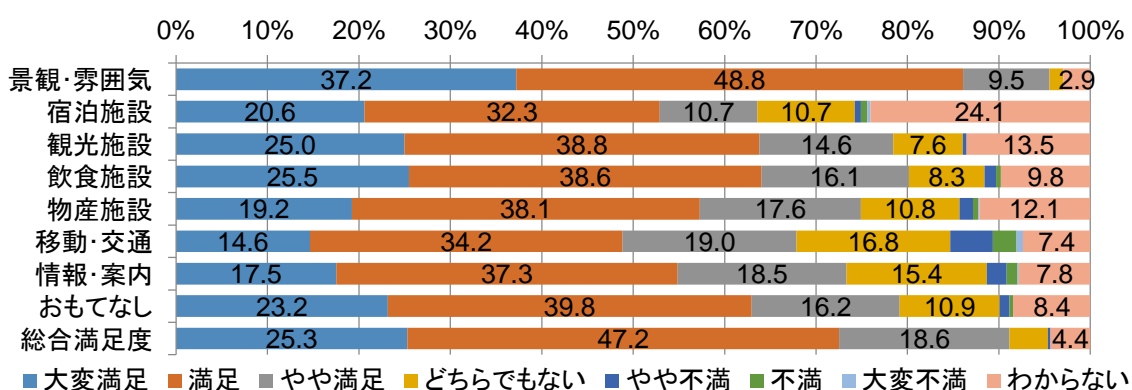
●平成 26 年観光客満足度の集計結果

## 9 割以上が総合的に「満足」、最も高評価は「景観・雰囲気」

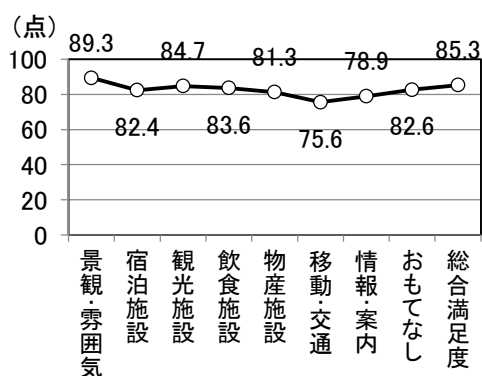
- ・今回の調査において、伊勢市を訪問した観光客に対して、「景観・雰囲気」等の 8 項目及び「総合満足度」について評価してもらったところ、全ての項目において「大変満足」「満足」「やや満足」の合計が 6 割以上となっています。特に「総合満足度」では 91.1%、「景観・雰囲気」では 95.5%を占めています。
- ・観光客満足度について、「わからない」を除き、100 点満点で換算したところ、「景観・雰囲気」が 89.3 点で最も高く、続いて「総合満足度」が 85.3 点、「観光施設」が 84.7 点となっています。

※調査自体は市民を含んで実施していますが、この推計では市民を除いています。

観光客満足度の比較（構成比）



観光客満足度の比較（点数）



## ●平成 26 年・平成 27 年 1 期速報結果（抜粋）

### （1）本市の特徴（平成 26 年・平成 27 年共通）

<属性> 中年・夫婦が多い

愛知・三重が多い

半日以上の滞在

<旅行行程> 旅程に宿泊（市外宿泊含む）を伴う割合が高い

（ただし、平成 26 年観光入込客推計上は 94%が日帰り・市外宿泊客）

自家用車が中心・公共交通利用も多い

<伊勢市を選んだ理由> 3 回目以上のリピーター、本市に憧れのある初訪問者

<観光目的地> 伊勢神宮（内宮・外宮）及び二見興玉神社への参拝

食べ物目的も多い

<本市観光の満足度> ほとんどの項目で「満足」の割合が高い・約 9 割に再訪

意欲

### （2）平成 26 年調査による属性等別の特徴

- ・ 男性より女性のほうが消費額単価が大きく、滞在時間も長い
- ・ 女性は自家用車だけでなく公共交通機関（主に近鉄・新幹線）を利用している
- ・ 本市を訪れる観光客は、30 代・40 代のファミリー、50 代・60 代の夫婦、70 代以上の三世代家族と幅広い
- ・ 将来の潜在顧客になり得る 20 代以下については、友人・カップル、日帰り旅行がメイン
- ・ 主に「初めて又は 2 回目の訪問となる遠方からの観光客（関東地方以北・西日本）」と「近隣からのリピーター客（中部・北陸、近畿地方）」に分けることができる

### （3）平成 26 年から平成 27 年の傾向

- ・ 近隣、リピーターの割合が増えた
- ・ 60 歳以上の高齢者及び夫婦の割合が増えた
- ・ 自家用車の利用割合が増えた
- ・ 高い満足度及び高い再訪意欲を維持しながらも「移動・交通」の不満の割合が増えた